

相模だより

能開大のうごき

平成10年度海外技術研修員 集団研修課程閉講

平成10年5月から同年12月までの間の約7カ月にわたって開講された海外技術研修員集団研修課程の「職業訓練指導員コース」が終了し、その閉講式がさる12月17日に本校で行われました。

本年度このコースを修了した研修員の皆さんは、アジア、中近東、アフリカおよび中南米の20カ国から来日した45名です。

研修員の皆さんは期間中、本校キャンパスにおける講義や実習をとおして、日本における最新の技術や指導方法について学ぶとともに、実際に企業に向いて先端技術の講習を受けたり、設備を見学したりと充実した研修を受けられました。

閉講式には、研修を無事終えた達成感と自国に帰って約9ヵ月ぶりに家族との再会に胸躍らせる研修員の笑顔があふれていました。式後には、最後の日本での思い出を胸に一緒に研修を受けた仲間たちとそれぞれ励ましあい、写真を撮りあうなど最後の別



修了書が校長から1人ひとりへ手渡された



ともに研修をした仲間たちと別れを惜しんで

れを惜しんでいました。また、恒例によりキャンパス内敷地に「プラム」の記念植樹をすませました。

応用課程担当指導員研修の 開発課題報告発表会

平成11年4月より新能開大等に開設される応用課程を担当する予定の指導員を対象とした「応用課程担当指導員研修」が本年度、本校で行われました。昨年10月2日には、当事業団の七瀬理事長、加藤理事および本校早川校長をはじめ、多数の出席者をまえに「開発課題テーマ説明会」(既報)が行われましたが、さらに12月11日には「開発課題報告発表会」が開催され、応用課程で実施される開発課題実習に関する12テーマについて、それぞれ担当指導員から報告発表がありました。当日も加藤理事、早川校長をはじめ、多数の出席者があり、会場は熱気に包まれていました。

なお、同会場では、当日の報告発表にあわせて、「NC旋削ユニットの開発」「高周波焼入れ装置の設



多数の出席があった報告発表会場



加藤理事によるあいさつ

計・制作」「自動計測FAシステムの開発」など各課題の展示も行われました。

平成10年度 全国総合技能展へ 本校も出品

平成10年度の「全国総合技能展」が平成11年1月20日（水）から22日（金）にかけて東京北の丸公園内の科学技術館で開催されました。

本校からも「雇用促進事業団コーナー」において、次の5点を出品しました。

(1) アーク溶接技能解析装置（産業機械工学科）

高度生産技術の中では比較的自動化が難しく熟練者の技能にたよる溶接作業。この熟練者の作業を再現させ、自動化に近づけようとするシステムで、本装置はこのシステムを構築するために必要となる技能データを取得するための装置である。

(2) 鉄骨建築溶接における技能レス化のための裏当て材（同上）

鉄骨建築における柱・梁接合部は溶接によって接合されるがために、組織や機械的性質、形状の不連続を起こし、溶接欠陥も発生しやすく、応力の集中をはらんでいる。このような継手部分の溶接をするにあたって、技術的な裏づけをもとに困難な現場溶接を通常の技能で良好な施工ができるように工夫した裏当てである。

(3) インテリアデザイナーのための木造住宅独習教材（造形工学科）

「インテリアデザイン」を独習しようとする者にとって、その学習範囲は多岐にわたり、効率的な学

習を独学で進めるには自ずと限界がある。本教材は、少しでも学習者の支援となるべく、パーソナルコンピュータを用いて、木造住宅に関する効率的な学習を進めるためのソフトウェアである。

(4) バーチャルリアリティ技術を応用した労働安全教育訓練用教材「クレーン作業の安全」（研修研究センター開発研究部）

労働省の定めるクレーンの特別教育や技能講習を受講する初心者を対象とし、バーチャルリアリティ（virtual reality）技術を効果的に応用した安全教育訓練用の教材である。パソコン上での模擬体験により、いかに事故を未然に防ぎ、事故発生時にはいかに対処するか等の訓練を支援し、安全教育の一層の高度化と訓練効果の向上を図るために作成された教材である。

(5) マルチメディア教材「機械保全<点検編>」（同上）

「マルチメディア時代に対応した職業能力開発のあり方に関する研究」の一環として開発された職業訓練用教材である。当研究はマルチメディアを使った新しいスタイルの教材について検討したもので、本出品物は、その開発研究の成果物である。

そのほか研修研究センターで行っている調査研究の資料、報告書等もあわせて展示されました。



ゲーム感覚で楽しむ(?)見学者



職業能力開発大学の展示コーナー



当校のコーナーをご覧になる小山労働政務次官（中央）